

令和7年度 長崎大学教育学部附属小学校 学校だより

「らしさ」輝く附属小

第7号 令和7年5月20日（火） 校長 森内 秀学



「保護者の支え」が輝かせた運動会

雨が心配される中でしたが、無事に運動会が終わりました。多数の御声援に閉会後の後片付けまで、誠にありがとうございました。

どの競技も、まさに「見はまる」くらい見応えのある運動会だったのではないのでしょうか。「お金払ってもいいくらいでしたよ!」と言ってくださる保護者の方もいらっしゃいました。



どうしてこのような運動会が生み出されたのでしょうか。

私は、地域の方の御協力の下、子どもと教職員に加え、

「保護者も」手を抜かずにがんばったからだと思います。

子どもが学校でどれほどがんばっていたかは、以前お伝えしました。でも、教職員が熱心に指導するだけではここまでがんばることはできません。家庭では、お子さんがけがのあとを見せたり、体の痛みを訴えたり、練習のつらさを



愚痴ったりしたこともあったでしょう。そんな我が子に寄り添いながらも、乗り越えられるよう励まし、一緒に練習し、おいしいものを食べさせてくださったことで、運動会に「はまる」ことができたのだと思います。

まさに、保護者の本気の支えが、感動の運動会を生み出したと言えるでしょう。

今週から、またいつもの日常が戻ってきます。目に見えない学力と言われる「非認知能力」を大いに高めた子どもたちが、学びの中でどんな姿を見せてくれるのか、楽しみにしています。